

高橋由一「高橋由一書簡」明治14（1881）年12月20日

本年拝命、各所真景油画は天覧の幸栄を

始め、今後該所経過がいしよの人員に限り親しく注目するを

得可えるべく御庇陰により幾分歟か油画の開途を新地方に

示し候段は、深くありがたくぞんじたてまつりそうろう難有奉存候。就ついでて猶熟考候に本邦

勝境しょうきょう佳景は古来至る所きんしょう僅少ならさるも、多少凶誌

等により耳目に触れ陳腐に属するは畢竟ひつきよう該景色

固有の俛まなる故に候歟。今や山形県下は然しからず。古色

ある深山幽谷に新路隧道を開られ橋梁きやうりやう栈廊さんろう

をも架せらるゝ等、新古混交こんこうの風景一層の美を増し

就中なかんずく大土木の御成功に至り候ては一目して驚愕せさる

なく一ひとつの新世界に在るかと疑かはしむるに至る。実未曾有の

絶勝と奉存候。積年まなびきた学来り候画術の本旨は、真を失

なはさるにあり。故ゆえに東北に見る所の新旧佳絶の真景を

写し以て未望いまだのぞむむ能はさる西南地方の衆庶しゅうしよをして熟

知せしむるあらは、此佳景に因ちなみ此真画術の大意を普あまねく

四方に知らしむるの一挙いっぎよたる実に少々ならず。元来画道か拡

充の意想日夜止まず、且西洋画伯いえと雖とも僻隅の

勝景しょうけいを精写して都会の人目に触れしむるの的例

有之これあるは美術座團の一美事と承及候。旁かたがた御奉任

以後御成功の山形地方諸景遺漏 無之様 真写

いろろこれなきよう

被為命、一景毎に解説を附し世間未曾有の山形

新開図誌御刊行 被下候 は、猶亦画術の効は

海内に溢れ候事にて積年の焦慮も一時に相顕れ

候儀に付、旅費滞留費而已 被下置候得 は、潤

筆料 拝受は 蒙御免度、万一御採用 被下候

上は来晩春頃御県下へ 罷出、御指示に寄り遠近

写景勉励揮写 相捧度、尤 向後 追々御新開

場所は随て御 編輯 被為在候哉と 奉 存 候 各図誌御

入用は在らせらるましく候得共 全く右は画道拡充の

御助力として特別御採用 被下候 は、感銘不過の

難有 仕合 奉 存 候 。 依て至急御賢慮 奉 伺 候 大略

恐惶謹上

高橋由一

明治十四年十二月二十日

三島 通庸様 侍史